

## マーケットの動き (2024年1月8日～1月12日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利は低下しました（債券価格は上昇）。

11日発表の米国CPI（消費者物価指数）は市場予想をやや上回る結果となり一時期長期金利は上昇しましたが、同日の米国30年国債入札の堅調な結果や12日発表の米国PPI（卸売物価指数）の下振れなどを受け、長期金利は4%を下回る水準まで低下しました。

欧州国債市場は、起債による需給の緩みなどを背景に、前週末比で金利は上昇しました（債券価格は下落）。

## 投資環境見通し (2024年1月)

## 長期金利は、米国、欧州（ドイツ）ともに低下

**米国：**インフレの鈍化を受けてFRB（米国連邦準備制度理事会）高官による金融引き締め姿勢が後退する中、労働需給の緩和もあり長期金利は緩やかに低下するとみています。ただし、将来の利下げ見通しが修正される場面では一時的に上昇する場面もあるとみられます。

**欧州：**ECB（欧州中央銀行）は政策金利の据え置きに際してインフレ圧力はなお強いとしており、景気対策に重点を置いた金融政策への転換には相当の時間を要するとみられます。しかし、ユーロ圏景気の減速懸念もあり、欧州（ドイツ）長期金利は徐々に低下するとみています。

	1月12日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	3.96	▲0.08	▲0.24	0.10	0.51
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース(騰落率)	566.82	0.68%	1.67%	7.33%	13.97%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

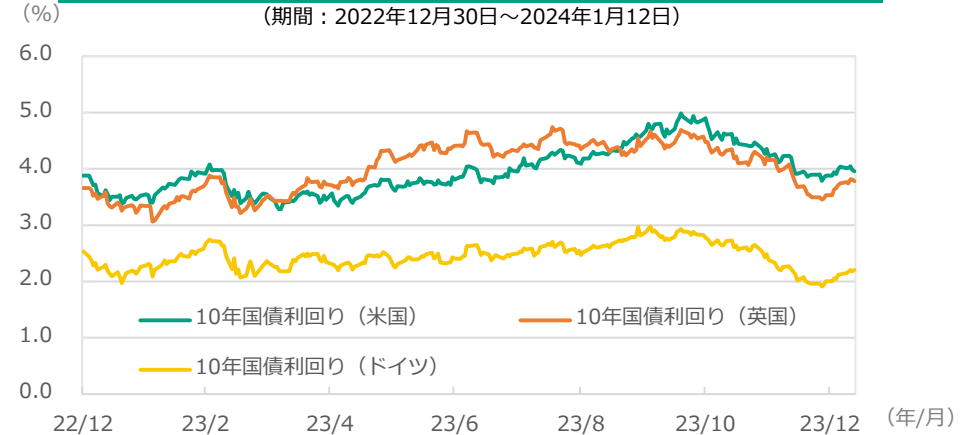
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

[https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload\\_pdf/202401\\_outlook.pdf](https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202401_outlook.pdf)

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

## 主要国国債利回りの推移

（期間：2022年12月30日～2024年1月12日）



## FTSE世界国債インデックスの推移

（期間：2022年12月30日～2024年1月12日）



※2022年12月30日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成